



## 経営者の真のパートナーに～若手会計人の挑戦～

本稿では、実務経営研究会事務局の江面洋治が、中小企業の支援に奮戦している若手会計人にお話を伺います。第10回は、愛知県一宮市の岡田糧税理士事務所を取材しました。岡田糧先生は、中小企業の経営支援業務に積極的に取り組んでおり、会計事務所の経営支援の内容や成果を競う「第3回経営支援倶楽部・全国大会」の指導成果部門で最優秀賞を獲得。多くの経営者の注目を集めています。

岡田糧税理士事務所

愛知県一宮市栄4丁目7-17 ブルックスキューブ2号 電話：0586-85-8327

—— 岡田先生が税理士を目指したきっかけを教えてください。

**岡田** 私は高校生のころは理系だったのですが、浪人時代に文系に転向して政治経済を選択しました。その時の予備校の講師が「税のしくみ」という本を貸してくれたことが、大学入学後に資産税を学びたいと思うきっかけになりました。

大学のゼミの先生が公認会計士だったこともあり、税理士や会計士を意識し始めていたのですが、私が就職活動を始めたころに事件が起こりました。私の父は従業員20名程度の企業を経営していたのですが、社内で不正が発生し、数千万円の賠償を父が補償したのです。今考えると、

営業一筋の父には財務や組織マネジメントの知識がなかったのでは、と思います。

その時に、父を支えたいという思いもあり、資格の勉強を始めました。大学卒業後に専門学校へ通い、その後には会計事務所に勤務しながら勉強に励み、合格しました。その事務所で12年ほど勤務したあと、平成24年に独立しました。

—— 岡田先生は、会計事務所はどのような存在だと思いますか。

**岡田** 会計事務所は中小企業のインフラであるべき、と私は考えています。財務会計が苦手な経営者は少なくありません。そのような経営者に数字が持っている意味を浸透させているのです。単に財務会計を提供するだけではなく、中小企業が財務会計を経営に役立てられる状態にすることが会計事務所の役割だと思います。—— 現在、特に力を入れていることはありますか。

**岡田** 私は自分の事務所を「経営支援を主体とした実践型の税理士事務所」と考え、特にM A S業務に注力しています。M A S業務とは、マネ

ジメントを財務と論理的思考でサポートする特化型のコンサルティングだと考えています。

—— 経営理念を教えてください。

**岡田** 「情熱と冷静の接点」が、ブレイクポイントを創造する」という理念を掲げています。私はお客様には「価値を超えて、次のステージに進んでほしい」と思っています。しかし、努力を続けられない方もいらっしゃいますし、現状維持で満足される方もいらっしゃいます。

そこで私たちがすべきことは、自分たちが経営者を次のステージに連れていくことではなく、経営者自身が乗り越えていくブレイクポイントを創造することだと思っています。

—— 今後の展望をお聞かせください。

**岡田** 以前勤務していた会計事務所を超えることが、現在の目標です。私はその会計事務所の初代所長に採用していただいたこともあり、所長にとても恩を感じています。その恩に報いるためにも、売上も組織としても超えていきたいと思っています。また自分自身が積極的に行動する

### 岡田 糧 (おかだ・りょう)

岡田糧税理士事務所所長。税理士。昭和48年生まれ。岐阜県出身。大学卒業後、会計事務所での勤務をしながら税理士資格の勉強を始める。平成13年に試験に合格し、平成15年に税理士登録。勤務先事務所の税理士法人化に伴い、平成21年に代表税理士に就任。平成24年に独立し、岡田糧税理士事務所を開設。

### 取材を終えて

常に経営者に寄り添い、共に成長していきたい! 地域経済に貢献したい! という岡田先生の熱い思いがピンピン伝わってくるインタビューでした。経営者からいっぺんに信頼されるのも納得です。今後のさらなるご活躍を祈念しています。(江面洋治)

